

平成31年度 県事研ビジョン「広島風おこのみプラン」進捗状況報告

会員（個人）による回答のまとめ【アンケート回収数：266枚】

評価欄:【している】【していない】、評価の期間:平成30年8月～令和元年7月

★「研修」－安定した事務機能の構築・資質向上

- 【実効策】 ①研修の機会等を積極的に活用し、新たに必要とされる知識や技能の習得に取り組みます。
 ②学校事務に関して必要な知識・技能を有し、事務処理等に活かします。
 ③自らの実践や研修成果を積極的に示し、改善に活かします。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	学校経営スタッフとしての役割を果たす能力を身に付けるための研修に参加	自己のキャリアの向上を常に考え、研修計画を立て研修(教育センター研修等)に参加する。 【参考:学校事務職員キャリア形成のための研修計画】	58.5	35.5	6.0	77.1	22.4	0.5	73.7	25.9	0.4	74.1	25.6	0.4
		事務研究大会(広島県公立小中学校事務研究大会等)に参加する。	92.8	1.5	5.7	100	0.0	0.0	98.8	0.4	0.8	98.9	1.1	0.0
ネットワーク	市町事務研への参加	実務研修やビジョンに沿った研究を行う。	84.0	9.7	6.3	93.4	5.8	0.8	90.9	7.0	2.1	92.5	5.6	1.9
フットワーク	共同事務組織等でのOJTによる研修の推進	日常の実践例を共有することにより経験値を高める。	79.5	14.5	6.0	96.5	2.3	1.2	97.1	2.1	0.8	93.2	6.0	0.8

【分析・考察】

・各市町、共同事務室による研修は充実している。
 ・キャリア向上を考えた研修参加について「している」と回答した人が3年間70%を超えており、それぞれの資質能力向上を意識していることがうかがえる。しかし、残りの26%は「学校経営スタッフとしての役割を果たす」「自己のキャリア向上を常に考える」等の文言から若年層のハードルが上がっている可能性がある。「つかさどる」事務職員になるためのキャリア形成の道筋の見える化も必要である。

☆「職務内容」－関係機関との連携・学校事務の改善と標準化

- 【実効策】 ①学校教育目標の達成に向け、担当する校務分掌等について、改善する意識をもって参画します。
 ②新しい発想や方法を積極的に取り入れ、創意工夫しながら事務の改善等に取り組みます。
 ③児童生徒理解のための情報収集を積極的におこなうとともに、職務に活かします。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	学校間連携	共同事務組織等(※)により、保幼小中高大連携にかかわる業務に必要な情報交換をし、連携を図る。 ※事務連絡会や事務研等の共同事務室以外の組織・会も含む。	77.1	17.2	5.7	88.4	11.6	0.0	86.0	12.3	1.6	81.6	18.4	0.0
ネットワーク	事務改善への実践	全国・県内各校の情報を得ながら、事務改善について事務職員間で連携を図る。	63.9	30.1	6.0	84.1	15.9	0.0	83.5	14.4	2.1	74.8	25.5	0.0
フットワーク	学校経営参画への取組	経験年数を活かし、学校経営参画に取り組む。	59.7	34.0	6.3	75.2	24.0	0.8	70.4	27.6	2.1	65.0	34.6	0.4

【分析・考察】

・すべての項目において前年度の数値を下回っている。その中で事務改善への実践については8.7%下がっていた。
 ・また、『学校経営参画への取組』について、していると回答した人は前年度から5%の減少ではあるが、70%をきり65%だった。していないと回答した人のアンケート結果を見ると、「教育活動の企画段階で情報提供することにより、学校経営にかかわる。」・「地域の人材や情報の提供者と学校との連携に関わり、教育活動が円滑に行えるように支援する。」の二つの設問に対し、半数以上の人が出来ないと回答していた。教育活動や地域連携について関わらないと、学校経営に参画できていないとハードルをあげて考えている可能性がある。
 身近な具体例(テル子劇場など)をより周知することで、経営参画について「自分は取り組んでいる」と自覚することができるのではないかと。

☆「情報収集と発信」－各方面とをつなぐ役割を果たし信頼を得る

【実効策】 ①他の教職員と積極的にコミュニケーションを図るとともに、相談に応じます。

②地域住民や保護者・児童生徒等の学校に対する要望等を把握し、教育活動の充実に向けた条件整備に取り組みます。

3つのワーク	具体的取組	具体的取組(詳細)	平成28年度 評価(%)			平成29年度 評価(%)			平成30年度 評価(%)			平成31年度 評価(%)		
			している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答	している	していない	未回答
チームワーク	情報提供・収集・意見交換	教育活動の企画段階で情報提供することにより、学校経営にかかわる。	58.2	35.2	6.6	75.6	23.6	0.8	69.1	30	0.8	68.0	32.0	0.0
	個人情報保護につとめる	情報管理の質の向上につとめる。	82.9	10.5	6.6	92.6	7.0	0.4	93.4	5.8	0.8	89.5	10.5	0.0
ネットワーク	職員からの要望・意見を把握	職員からの要求・意見を予算要求・執行計画等に反映させる。	86.8	6.6	6.6	98.4	0.8	0.8	96.3	2.9	0.8	97.7	2.3	0.0
	地域との連携	地域の人材や情報の提供者と学校との連携に関わり、教育活動が円滑に行えるように支援する。	50.3	42.8	6.9	72.1	26.7	1.2	67.9	30.9	1.2	56.4	43.2	0.4
	情報公開	HPやメールシステム・学校だより等を利用し、遅滞なく発信するための支援をする。	35.6	57.5	6.9	47.3	51.9	0.8	45.7	53.1	1.2	36.8	62.8	0.0
フットワーク	学校内外の情報や条例規程の改正等の収集と理解	(職員会議や事務だより・回覧等で) 予算執行状況や条例等の改正について職員へ周知徹底する。	79.2	14.2	6.6	94.2	5.4	0.4	91.8	7.4	0.8	89.1	10.9	0.0
	地教委と連携を取り、教育条件整備につながる予算要求をする。または執行計画を立てる	予算要求等に有効な根拠データを収集し、適正な予算要求をする、または執行計画を立てる。	80.1	13.6	6.3	92.6	6.6	0.8	88.1	9.5	2.5	86.8	13.2	0.0

【分析・考察】

・「個人情報保護につとめる」について89.5%が重要性を理解し、働きかけもできている。アンケートを取り始めた平成28年度の時点から高い数値を推移し、個人情報の重要性を理解していたと思われる。

・「職員からの要望・意見を把握」について97.7%が教職員からの要望を把握し、しっかり予算に反映させることができている。今後もこの数値を維持していくべきである。

・「情報公開」については高い数字ではないが、「している」の数値に大きな変化がなく、一定の事務職員(35%から45%程度)が情報発信の支援をしていると思われる。

全体として、数字の変動が大きい設問、数字が低い設問については設問内容の変更や、事務職員がどのようにそれらの業務に関わるべきかを再検討、発信する必要がある。

・フットワークについては「学校内外の情報や条例規程の改正等の収集と理解」、「市町教委と連携を取り、教育条件整備につながる予算要求をする。または執行計画を立てる」ではともに9割近くが「している」と回答している。共同事務室内で制度の改正、予算の情報等を事務だより等で共有している事例が多いからではないかと考えられる。学校事務職員がこの分野の業務を強く意識し、実行していることの表れである。